

令和2年3月27日

富山大学経済学部に対する外部評価委員会報告書

1. 経緯及び目的

地方国立大学における社会科学系大学院機能の強化にむけて(富山大学大学院経済学研究科の在り方に関する有識者会議報告書—令和元年6月6日)において、大学としての自浄作用をシステムとして整備することが重要であることから、外部評価を定期的実施すべきであると指摘があった。

これを契機に、外部から見た現在の経済学部の客観的評価、今後の経済学部の進むべき方向性を明らかにするために、外部の有識者により委員会を構成し、意見をとりまとめることとした。

すなわち、経済学部および経済学研究科の研究、教育、社会貢献・連携、管理・運営などについて自己点検を実施し、外部の有識者にこれらを評価していただく機会を設定するものである。

2. 委員の構成

(1) 学識経験者

- ① 経済—井川一宏(神戸大学名誉教授)(専攻は応用経済学)
- ② 経営—上林憲雄(神戸大学教授)(専攻は経営学)
- ③ 法学—能見善久(東京大学名誉教授)(専攻は民法)

(2) ビジネス界

中村昌弘(前名古屋銀行頭取)

(3) 同窓会(越嶺会)

橋本洋二(越嶺会会長)

(以上敬称略)

(4) 事務局は経済学部

3. 活動のスケジュール

活動期間は令和2年3月まで。

2回程度開催し、意見をとりまとめることとする。

4. 委員会の実績

(1) 第1回委員会(令和元年12月16日)

- ① 事務局から富山大学経済学部の概要、研究、教育、就職、及び地域貢献等の現状について報告がなされた。
- ② 意見交換が行われ、論文・著書の評価の仕方、昇任審査、企業として求める能力、アドバンスト・プログラムなどについて議論がなされた。
- ③ 今後の進め方について、委員からテーマを絞り込む方がよいとの意見がだされ、結論として教育にしばらくこむこととなった。第2回までの間に授業視察の機会を設けることとなった。

(2) 授業視察(令和2年1月23日)

- ① 能見委員による授業・ゼミの視察、教員ヒアリングが行われた。
- ② 私語がなく真面目に聞いているが、質問が少なく全体的に積極性に欠ける印象を受けたとのことであった。

(3) 第2回(令和2年2月4日)

- ① 授業・ゼミの視察、教員ヒアリングの結果報告がなされた。
- ② 事務局から教育に関わる経済学部の現状報告がなされた。
- ③ 意見交換が行われ、ゼミの進め方、英語による授業、学生による授業評価、地元とのプラットホーム作り、成績優秀者に対する表彰などについて議論がなされた。
- ④ 報告書の取り纏め方について議論がなされ、第1回、第2回の詳細記録を作成した上、そこで出された意見について、事務局としてのコメントをまとめることとなった。

第1回及び第2回の記録ならびに委員の意見に対する事務局コメントのまとめは別添のとおりである。

これについては、経済学部のウェブサイトで公表することとする。

5. 最後に

委員からいただいた意見は、いずれも富山大学経済学部の現状を踏まえた、的確かつ貴重なご指摘であった。ご多忙中にも関わらず、かつご遠方から本委員会にご参画いただいた委員の皆様方に改めて、心からの感謝を申し述べたい。

以上